

第63回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

試合結果及び個人トータル表

男子	Bコート 第6試合(2回戦)						
日時	平成22年6月19日(土) 17:00~						
会場	熊本県立体育館						
対戦結果	チーム名	得点	9	—	25	得点	チーム名
	佐賀北	65	24	—	22	93	延岡学園
			12	—	24		
			20	—	22		

チーム名						
佐賀北						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	坂田 晃樹	0	0	0	0	
5	水頭 一貴	0	0	0	0	
6	徳廣 光一郎	2	0	1	0	
7	戸田 慎也	12	4	0	0	
8	江口 賢多	6	0	2	2	
9	藤森 翔平	4	0	1	2	
10	小出 奨	0	0	0	0	
11	馬場 勇輔	0	0	0	0	
12	松本 匡平	3	1	0	0	
13	北村 俊和	11	0	4	3	
14	本村 拓郎	4	0	1	2	
15	大野 聖文	23	2	6	5	
合計		65	7	15	14	

チーム名						
延岡学園						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	甲斐 慶彦	0	0	0	0	
5	エリマン プイ	19	0	9	1	
6	寺原 拓史	11	1	4	0	
7	黒木 亮	10	0	3	4	
8	岩田 大輝	12	1	4	1	
9	善家 耕太郎	0	0	0	0	
10	田中 駿也	4	0	2	0	
11	平岡 大志	0	0	0	0	
12	脇坂 恭輔	0	0	0	0	
13	岡本 飛竜	0	0	0	0	
14	ベンドラメ礼生	19	0	6	7	
15	エルハジ・アッサン・ジョブ	18	0	8	2	
合計		93	2	36	15	

戦評

第1Q高さに勝る延岡学園はインサイドにボールを集め確実に得点していく。佐賀北は全員でしっかりボールを回しシュートまでつなげるがゴールに嫌われ得点を伸ばすことができない。第1Q中盤、延岡学園はフロントコートからゾーンプレスを仕掛け相手のミスを誘い 岩田などが得点を決めリードをひろげる。佐賀北は 戸田の3Pで得点をあげるが25 - 10、15点ビハインドで第1Q終了。第2Q延岡学園は ベンドラメのミドルや速攻で得点を重ねる。対する佐賀北は 江口、大野がインサイドを粘り強く攻め、点差をひろげさせない。ディフェンスからリズムをつくる佐賀北に対して波に乗れない延岡学園であったが、第1Qનોリードを守り47 - 33、14点リードで前半終了。

第3Q前半同様、積極的に攻める佐賀北は 北村のペネトレイトなどで得点するが延岡学園も 寺原の連続得点で点差をひろげる。点差を詰めた佐賀北だったが焦りからかシュートが入らず徐々に点差は広がり71 - 45延岡学園リードで第3Q終了。第4Q佐賀北は速攻からの3Pなどで得点する。厳しいディフェンスで苦しいシュートをさせるが延岡学園 エリマンにことごとくりバウンドをとられ点差をひろげられる。残り3分佐賀北はオールコートで追い直し点差を詰めるが、93 - 65リードを守りきった延岡学園が勝利を収めた。

担当者(谷村 弘章)

第63回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

試合結果及び個人トータル表

男子	Aコート 第2試合(1回戦)						
日時	平成22年6月19日(土) 11:00 ~						
会場	熊本県立体育館						
対戦結果	チーム名	得点	32	—	15	52	佐賀東
	鹿児島工業	99	24	—	8		
			21	—	15		
			22	—	14		

チーム名						
鹿児島工業						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	鮫島 和人	0	0	0	0	0
5	竹添 猪武樹	2	0	0	2	1
6	日高 宏紀	12	0	6	0	0
7	中馬 健志	15	1	4	4	2
8	瀬戸山 章	12	0	6	0	0
9	塩井 将仁	0	0	0	0	0
10	小野 昌彦	8	0	3	2	0
11	相良 英人	5	0	2	1	0
12	川畑 政貴	20	0	9	2	2
13	黒木 晟	10	0	5	0	2
14	玉寄 国章	6	0	3	0	0
15	玉田 博人	9	1	3	0	0
合計		99	2	41	11	7

チーム名						
佐賀東						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	森田 紘基	6	0	3	0	2
5	田中 寛起	4	0	1	2	3
6	志岐 太輔	0	0	0	0	1
7	小西 雅哉	10	2	2	0	4
8	田中 涼	6	0	2	2	2
9	藤井 翔大	0	0	0	0	0
10	社頭 雅也	17	5	1	0	1
11	谷川 翔	0	0	0	0	1
12	石井 太将	0	0	0	0	3
13	友成 立	6	0	3	0	2
14	武田 侑輔	3	1	0	0	1
15	本多 健人	0	0	0	0	1
合計		52	8	12	4	21

戦評

第1Q、川畑のインサイドを中心にゲームを組み立てる鹿児島工業に対して、社頭のアウトサイドで応戦する佐賀東、お互い一步も譲らない立ち上がり。しかし、1Q中盤から高さで勝る鹿児島工業がリバウンドを完全に制し点差をひろげ32 - 15でリードする。第2Qも鹿児島工業のゾーンディフェンスを崩せない佐賀東はアウトサイドシュートの入りも悪く点差を縮めることができない。一方、鹿児島工業は堅い守備から速攻を連続し点差をひろげ56 - 23と大きくリードし前半を終了する。第3Q、ディフェンスから速い攻撃を見せる佐賀東は社頭、小西の連続3Pで得点を重ねる。しかし、鹿児島工業の多彩なディフェンス、川畑、黒木のインサイドでの得点を止めることができず点差を縮めることができない。第4Q、ディフェンスラインを上げてプレッシャーをかける佐賀東に対し鹿児島工業は中馬の落ち着いたゲームメイクで付け入る隙を見せない。高さで勝る鹿児島工業が終始リバウンドを制して、アウトサイドシュートで粘る佐賀東を99 - 52で退けた。

担当者(谷村 弘章)

第63回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

試合結果及び個人トータル表

男子	Aコート 第3試合(1回戦)						
日時	平成22年6月19日(土) 12:30~						
会場	熊本県立体育館						
対戦結果	チーム名	得点	32	—	17	76	大分舞鶴
	福大大濠	108	19	—	16		
			30	—	18		
			27	—	25		

チーム名						
福大大濠						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	古賀 弾	18	4	3	0	4
5	岡本 雄紀	10	0	5	0	0
6	水口 雅也	14	4	1	0	1
7	福元 直人	5	1	0	2	2
8	能隅 彰太	1	0	0	1	0
9	藤田 弘道	25	0	11	3	0
10	村越 圭祐	13	0	6	1	0
11	徳住 颯晟	0	0	0	0	0
12	高野 慎也	2	0	1	0	0
13	石川 雅朗	2	0	1	0	3
14	中尾 渉	3	0	1	1	1
15	新飼 雄三	15	1	6	0	1
合計		108	10	35	8	12

チーム名						
大分舞鶴						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	酒井 雅史	2	0	1	0	4
5	渡辺 翼	3	1	0	0	0
6	堀 高司郎	2	0	1	0	2
7	園田 高史	25	5	5	0	3
8	首藤 啓吾	0	0	0	0	2
9	財前 大輝	0	0	0	0	0
10	岡部 真之介	0	0	0	0	0
11	佐藤 君彦	19	4	1	5	0
12	武津 祐太郎	8	2	1	0	5
13	中垣 俊平	2	0	1	0	1
14	高山 竜之介	11	1	3	2	0
15	鈴木 貴登	4	0	2	0	0
合計		76	13	15	7	17

戦評

ゲームの立ち上がりはお互いマンツーマンでスタート、お互いシュートの打ち合いとなるが、舞鶴の武津の3ポイントで先制する。対する大濠は舞鶴のオフェンスリバウンドに苦しんだが、インサイドの藤田のインサイドを起点に着実に点数をとり、高さで勝る大濠高校が1Qを32 - 17とリードで終了。2Q、舞鶴は2 - 2 - 1のゾーンプレスをして点差を詰めにかかる、舞鶴の高山、佐藤の好ディフェンスから得点をするが、大濠はリバウンドを支配して中・外・中とリズム良く点数を重ね前半を51 - 33で折り返す。3Qは舞鶴のアウトサイドが良く決まるが、大濠の藤田が攻守共にインサイドを支配して勝負を決定付ける。4Qもゴール下で得点を重ねる大濠に対し、舞鶴も切り替えの早いバスケットを展開するが点差は縮まらず、108 - 76で試合終了。福大大濠が勝利を収めた。

担当者(森)

第63回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

試合結果及び個人トータル表

男子	Aコート 第4試合(1回戦)						
日時	平成22年6月19日(土) 14:00~						
会場	熊本県立体育館						
対戦結果	チーム名	得点	21	—	8	43	北中城
	佐賀北	73	14	—	10		
			21	—	15		
			17	—	10		

チーム名						
佐賀北						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	坂田 晃樹	1	0	0	1	0
5	水頭 一貴	2	0	1	0	0
6	徳廣 光一郎	1	0	0	1	2
7	戸田 慎也	6	2	0	0	1
8	江口 賢多	6	0	3	0	1
9	藤森 翔平	16	3	3	1	0
10	小出 奨	1	0	0	1	0
11	馬場 勇輔	14	2	4	0	0
12	松本 匡平	3	1	0	0	1
13	北村 俊和	7	0	2	3	0
14	本村 拓郎	4	0	1	2	0
15	大野 聖文	12	0	4	4	1
合計		73	8	17	13	6

チーム名						
北中城						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	宜次 大亜	0	0	0	0	0
5	上門 翔	8	0	4	0	2
6	友寄 景琢	3	0	1	1	0
7	安慶田 正樹	11	1	3	1	1
8	屋宜 実来	9	1	3	0	2
9	友寄 景涼	0	0	0	0	1
10	根間 高志	0	0	0	0	0
11	新垣 康太郎	0	0	0	0	3
12	平識 慶大	6	0	3	0	3
13	宮城 武明	1	0	0	1	3
14	金城 裕樹	4	0	2	0	0
15	塚田 瑞己	2	0	1	0	2
合計		43	2	17	3	17

戦評

第1Q、北中城は1-3-1のゾーンデフェンスで佐賀北に対抗。頻繁にフルメンバーチェンジをくり返すツープラトン体制で流れをつかもうとするが、佐賀北 藤森の連続3Pをはじめとし、計5本の3Pや速攻で北中城のディフェンスを攻略。21-8、佐賀北のリードで第1Q終了。

第2Q、佐賀北は 藤森が3P、ゴール下と連続して得点し、さらにリードをひろげる。北中城も 安慶田のドライブインや 上門のゴール下などで得点するも、点差は縮まらず、流れを引き寄せられない。35-18で第2Q終了。

第3Q、北中城は 屋宜のミドルシュートや 上門のゴール下などで反撃を開始。しばらく得点の止まっていた佐賀北もアウトサイドシュートで対抗し、追撃を許さない。残り7分、北中城はマンツーマンにディフェンスを変えるもファールがかさみ、対する佐賀北は与えられたフリースローを着実に決め、点差をひろげ、56-33で第3Q終了。第4Q、北中城は激しいディフェンスで佐賀北を追い込もうとするものの、相手にゴール下を支配され、佐賀北の優位は動かない。最後まで落ち着いてゲームを進めた佐賀北が73-43で勝利を収めた。

担当者(四方田洋一)

第63回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

試合結果及び個人トータル表

男子	Aコート 第1試合(1回戦)						
日時	平成22年6月19日(土) 9:30~						
会場	熊本県立体育館						
対戦結果	チーム名	得点	31	—	14	得点	チーム名
	福岡第一	108	24	—	10	41	柳ヶ浦
			28	—	13		
			25	—	4		

チーム名						
福岡第一						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	本間 遼太郎	6	0	3	1	0
5	白川 健人	2	0	1	0	2
6	井星 一希	14	3	1	3	0
7	長島 エマニエル	18	2	5	2	0
8	川崎 健斗	0	0	0	0	0
9	小松 雅輝	6	1	1	1	0
10	ゲイル・エルハジ・マリック	23	0	10	3	2
11	田中 光	6	0	3	0	3
12	梁 超	8	0	4	0	1
13	鷗 誠司	7	0	3	1	1
14	幡本 優生	2	0	1	0	1
15	山本 純平	16	0	8	0	0
合計		108	6	40	11	10

チーム名						
柳ヶ浦						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	木之元 亮磨	2	0	1	0	2
5	谷口 啓太	0	0	0	0	1
6	紀 亮輔	3	1	0	0	2
7	吉山 亨	18	1	7	1	0
8	辻田 玲央	7	0	3	1	4
9	管 雅敏	6	0	3	0	5
10	山本 琢也	3	0	0	3	1
11	大野 仁士	0	0	0	0	1
12	小原 貴志	2	0	1	0	1
13	尾崎 仁	0	0	0	0	0
14	後藤 史成	0	0	0	0	0
15	新垣 萌	0	0	0	0	0
合計		41	2	15	5	17

戦評

両チーム、マンツーマンでスタート、開始直後から福岡第一の 番長島の1on1、3Pがおもしろいように決まり、福岡第一が1Q残り5分で20 - 4と大きくリードを奪う。対する柳ヶ浦も 番吉山の1on1を中心に攻撃を展開するが、流れはかわらない。2Qから福岡第一はメンバーを大きく入れ替え余裕の展開。柳ヶ浦もメンバーを変え粘りを見せるが、ジリジリと差が開いていく。3Qに入り、柳ヶ浦はインサイドのファウルが込み、非常に苦しい展開となる。リバウンドを支配され、福岡第一の速攻が連続して決まり3Q終了時は83 - 37と勝負を決定づける。4Qに入っても制空権を完全に握った福岡第一が攻め続け、一方的な展開となり108 - 41で福岡第一が勝利を収めた。

担当者(田口 智之)

第63回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

試合結果及び個人トータル表

男子	Bコート 第1試合(1回戦)						
日時	平成22年6月19日(土) 9:30~						
会場	熊本県立体育館						
対戦結果	チーム名	得点	20	—	14	得点	チーム名
	小林	85	25	—	21	66	佐世保工業
			19	—	14		
			21	—	17		

チーム名						
小林						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	高倉 陸	27	4	7	1	3
5	近藤 隆幸	15	1	6	0	4
6	井上 祐貴	12	0	5	2	2
7	長友 祐輔	0	0	0	0	2
8	萩原 大貴	9	0	4	1	3
9	吉村 暢高	15	0	8	1	1
10	海野 賢	0	0	0	0	0
11	平澤津 琢仁	5	1	0	2	1
12	平下 優	0	0	0	0	0
13	古藤 純孝	0	0	0	0	0
14	中野 裕平	0	0	0	0	0
15	石井 聖也	0	0	0	0	0
合計		85	6	30	7	16

チーム名						
佐世保工業						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	伊藤 省吾	0	0	0	0	1
5	江島 琢人	3	0	1	1	0
6	木寺 怜	13	1	4	2	5
7	川崎 博紀	0	0	0	0	0
8	岡 真沙輝	18	1	5	5	5
9	篠田 健太	7	1	2	0	4
10	アラオホ・シャン・イバン	25	4	5	3	3
11	江川 凌	0	0	0	0	1
12	池田 紘樹	0	0	0	0	0
13	松田 元気	0	0	0	0	0
14	高見 龍志	0	0	0	0	0
15	杉原 伸	0	0	0	0	0
合計		66	7	17	11	14

戦評

第1Q、小林、佐世保工業ともにディフェンスはマンツーマンでスタート。どちらもアウトサイドシュートを中心に攻めるも、なかなか決まらない。開始2分過ぎに小林の3Pが入り、試合は小林のペースで進む。残り3分、佐世保工業はのシュートでようやく初得点。その後も、を中心に得点を重ね、20 - 14で終了。第2Q、どちらもアウトサイド中心に攻撃を展開し、一進一退の攻防が続く。佐世保工業は小林のミスに乗じて速攻などで得点し反撃するも、小林のゴール下などでしぶとく得点し点差を広げ、45 - 35で終了。第3Q、序盤はお互い譲らず得点するも、残り6分あたりからお互いターンオーバーが目立ち、点数が決まらなくなる。佐世保工業は、ディフェンスを3 - 2のゾーンに変え、リズムを取り戻そうとするものの、小林は、が3Pを沈め、さらに引き離す。64 - 49で終了。第4Q、佐世保はのフリースロー、3Pで反撃。小林は攻撃のリズムを取り戻そうと、を投入すると、中心に落ち着いて得点を重ねる。佐世保工業はオールコートのマンツーマンで激しくディフェンスするも点差を縮めることができず、85 - 66で小林が勝利を収めた。

担当者(四方田洋一)

第63回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

試合結果及び個人トータル表

男子	Bコート 第2試合(1回戦)						
日時	平成22年6月19日(土) 11:00~						
会場	熊本県立体育館						
対戦結果	チーム名	得点	26	—	13	チーム名	得点
	九州学院	78	10	—	20	97	美来工科
			19	—	32		
			23	—	32		

九州学院						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	澤田 幸志郎					1
5	石井 寛二					
6	滝田 康平	17	5	1		2
7	森川 湧斗	15	5			1
8	坂梨 佑太	5		2	1	3
9	出口 凌大	18	2	6		2
10	黒田 章吾	3	1			2
11	本部 達也	20	4	4		1
12	澤邊 圭太					
13	田中 祐樹					
14	鍬崎 空也					
15	宇佐 仁孝					
合計		78	51	26	1	12

美来工科						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	新里 龍武			11	4	1
5	ファンティンマイケル真樹			3		1
6	喜久山 貴一		5	2	1	2
7	宮平 弥			3		1
8	島尻 恵汰		1			
9	池原 秀平			2		
10	大城 拓也			3	3	2
11	長嶺 直也		1	3		
12	玉城 智也			2		
13	座間味 光			1		
14	照屋 友雅			2		1
15	金城 宏智			2		
合計		97	21	68	8	8

戦評

第1Q九州学院は、オールコートゾーンプレス、美来工科は、ハーフマンツリーのDFでスタート。九州学院が時間をかけ、高さをいかしたセットプレーで得点を重ねる。美来工科は、DFリバウンドがとれず九州学院にセカンドチャンスを与えてしまう。1Qは、26 - 13の九州学院リードで終了。第2Q、2分過ぎ、思うように攻めれていない美来工科がタイムアウト。タイムアウト後、美来工科はオールコートマンツリーにディフェンスを変える。ここから今までのゆったりとした試合展開から、一気に速い展開に流れが変わる。美来工科がスティールからの速攻を重ね、点差を縮める。九州学院は2度のタイムアウトで流れを切ろうとするが、追いつかれ、33 - 36、九州学院の3点リードで前半が終了。3Q、美来工科は、ゾーンプレスをしかけ、早い展開に持ち込み、新里のゴール下、喜久山の3ポイントで得点を重ね逆転。ゾーンプレスからのスティールを重ね、美来工科が10点差をつけて3Q終了。4Q開始早々美来工科はスティールからの速い展開で攻め、点差をひろげる。九州学院は、美来工科の激しいディフェンスに思うように攻めることができず、リバウンドもとれない。九州学院 滝田、森川がスリーポイントを連続で決めるが点差は縮まらず試合終了。

担当者(上原 裕樹)

第63回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

試合結果及び個人トータル表

男子	Bコート 第3試合(1回戦)						
日時	平成22年6月19日(土) 12:30~						
会場	熊本県立体育館						
対戦結果	チーム名	得点	21	—	12	得点	チーム名
	れいめい	87	21	—	17	77	玉名工業
			21	—	26		
			24	—	22		

チーム名						
れいめい						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	濱田 真伍	34	3	10	5	4
5	熊本 哲也	16	4	2	0	1
6	賦句 圭亮	0	0	0	0	0
7	西田 大将	12	2	2	2	2
8	眞弓 了介	4	0	2	0	2
9	大井 智義	2	0	1	0	0
10	藤田 裕文	0	0	0	0	0
11	川口 慧	0	0	0	0	0
12	坊ノ下 佳樹	0	0	0	0	1
13	重留 翼	0	0	0	0	0
14	丸田 潤	0	0	0	0	0
15	濱田 純旗	19	3	3	4	1
合計		87	12	20	11	11

チーム名						
玉名工業						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	上原 大輝	11	0	5	1	2
5	浦島 恵人	0	0	0	0	0
6	谷口 直弥	0	0	0	0	0
7	山下 宗一郎	32	4	9	2	2
8	上原 克也	0	0	0	0	2
9	藪崎 康平	0	0	0	0	0
10	平山 知樹	17	3	4	0	2
11	池上 健造	0	0	0	0	1
12	井上 敏一	2	0	1	0	2
13	大跡 竜一	0	0	0	0	0
14	山下 直人	15	2	4	1	4
15	上野 義喜	0	0	0	0	0
合計		77	9	23	4	15

戦評

両チームマンツーマンでスタート、れいめいは激しくディフェンスを行い、番濱田の3P、連続シュートでリードを奪う。対する玉名工業はシュートが入らず苦しい展開となる。その後は両チーム一進一退となり、21 - 12とれいめいが9点リードで1Q終了。2Qも展開は変わらず両チーム粘りを見せ、前半は42 - 29れいめいのリードで折り返す。

後半に入り、玉名工業はれいめいの番濱田に執拗なマークをしボールを持たせない。リズムを崩したれいめいに対し、玉名工業は番山下、番平山が連続してシュート決め、3Q残り5分で1ゴール差まで追い上げを見せる。れいめいもタイムアウト後リズムを立て直し、番の3P、フリースローなどで加点し、オールコートプレスをかけ突き放しにかかる。玉名工業も必死に粘り再び一進一退となり、63 - 55れいめいリードで3Q終了。4Q出だしから両チーム点の取り合いとなるが、玉名工業に要所でミスが出て、残り6分をきったところで77 - 67と差が10点に広がる。玉名工業は激しいディフェンスでプレッシャーをかけるがれいめいは落ち着いてボールを回し、残り4分から、番西田が連続で3Pを決め勝負を決定づけた。

担当者(田口智之)

第63回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

試合結果及び個人トータル表

男子	Bコート 第4試合(1回戦)						
日時	平成22年6月19日(土) 14:00~						
会場	熊本県立体育館						
対戦結果	チーム名	得点	12	—	22	101	延岡学園
	西海学園	66	12	—	25		
			17	—	31		
			25	—	23		

チーム名						
西海学園						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	松崎 圭介	12	2	3	0	2
5	西 大智	2	0	1	0	0
6	岩谷 行祐	0	0	0	0	1
7	福田 賢吾	0	0	0	0	0
8	中嶋 功一	7	2	0	1	0
9	林 孝昭	0	0	0	0	0
10	小田 湧気	1	0	0	1	0
11	浜道 悠治	9	0	4	1	1
12	藤田 俊介	20	0	8	4	4
13	林田 順平	2	0	1	0	0
14	原口 孝	10	0	4	2	5
15	米満 圭輔	3	0	1	1	0
合計		66	4	22	10	13

チーム名						
延岡学園						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	甲斐 慶彦	5	1	1	0	2
5	エリマン プイ	17	0	7	3	2
6	寺原 拓史	5	1	1	0	2
7	黒木 亮	22	0	11	0	2
8	岩田 大輝	2	0	1	0	1
9	善家 耕太郎	2	0	1	0	0
10	田中 駿也	7	1	2	0	1
11	平岡 大志	2	0	1	0	1
12	脇坂 恭輔	3	1	0	0	0
13	岡本 飛竜	8	0	4	0	1
14	ベンドラメ礼生	14	2	4	0	3
15	エルハジ・アッサン・ジョブ	14	0	7	0	2
合計		101	6	40	3	17

戦評

第1Q高さに勝る延岡学園が エリマン 黒木にボールを集め確実に得点を重ねる。西海学園もゾーンディフェンスで相手のミスを誘い速い展開で得点する。しかし、少し遅れた西海学園は22 - 12と10点のビハインドで第1Qを終了。第2Qの初め 藤田 原口の連続シュートで西海学園が点差を少し縮めるが、オフェンスのミスが目立ち流れをつかむことができない。逆に延岡学園は替わって入った 岡本、エルハジが活躍し、47 - 24と大きく点差をひるげ前半を終了。第3Q西海学園は延岡学園の高い壁に果敢に攻撃し 藤田のインサイドで得点を重ねる。しかし、堅い守りを見せる延岡学園は相手のミスも誘い速攻を確実に決め点差を大きくひるげていく。第4Q延岡学園はメンバーを大きく替えゲームを進める。西海学園も替わって入った 松崎、中嶋の連続3Pで得点を重ねるが点差は詰まらず66 - 101大きな差をつけ延岡学園が勝利を収めた。

担当者(谷村 弘章)

第63回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

試合結果及び個人トータル表

男子	Aコート 第5試合(2回戦)						
日時	平成22年6月19日(土) 15:30~						
会場	熊本県立体育館						
対戦結果	チーム名	得点	27	—	19	得点	チーム名
	福岡第一	112	25	—	23	85	小林
			36	—	23		
			24	—	20		

チーム名						
福岡第一						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	本間 遼太郎	26	3	8	1	1
5	白川 健人	0	0	0	0	0
6	井星 一希	10	1	2	3	1
7	長島 エマニエル	7	1	1	2	1
8	川崎 健斗	0	0	0	0	0
9	小松 雅輝	0	0	0	0	0
10	ゲイル・エルハジ・マリック	25	0	12	1	2
11	田中 光	13	0	6	1	0
12	梁 超	6	0	3	0	3
13	鷗 誠司	12	0	6	0	1
14	幡本 優生	4	0	1	2	0
15	山本 純平	9	0	4	1	3
合計		112	5	43	11	12

チーム名						
小林						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	高倉 陸	28	2	11	0	4
5	近藤 隆幸	4	0	2	0	3
6	井上 祐貴	14	2	3	2	2
7	長友 祐輔	16	2	5	0	2
8	萩原 大貴	10	0	5	0	2
9	吉村 暢高	8	0	4	0	1
10	海野 賢	0	0	0	0	0
11	平澤津 琢仁	5	1	1	0	0
12	平下 優	0	0	0	0	0
13	古藤 純孝	0	0	0	0	0
14	中野 裕平	0	0	0	0	0
15	石井 聖也	0	0	0	0	0
合計		85	7	31	2	14

戦評

1Qは、お互いマンツーマンでスタート、小林の 長友が先制し、近藤のブロック、井上のスティールからの速攻で得点し流れに乗る。対する福岡第一は小林のディフェンスを前になかなかリズムを掴めないなか福岡第一の 田中のミドルと、本田の3ポイントと確実に得点し、27-19で終了。2Q、高さを活かした福岡第一と運動量の多さを活かした小林は一進一退の攻防を繰り返す、福岡第一のリードは変わらず52-42で試合を折り返す。3Qは出だしから、福岡第一の 長島が連続得点し、ミスの目立つ小林を一気に突き放す。小林はディフェンスで立て直すも、88-65で終了。最終Qはお互い気迫溢れる好ディフェンスと激しい走り合いのオフェンスで点を取り合うも、小林は点差を詰めることが出来ず、112-85で試合終了。福岡第一が勝利し準々決勝に駒を進めた。

担当者(森 大樹)

第63回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

試合結果及び個人トータル表

男子	Aコート 第6試合(2回戦)						
日時	平成22年6月19日(土) 17:00~						
会場	熊本県立体育館						
対戦結果	チーム名	得点	31	—	17	得点	チーム名
	福大大濠	127	26	—	18	69	れいめい
			41	—	16		
			29	—	18		

チーム名						
福大大濠						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	古賀 弾	4	0	2	0	1
5	岡本 雄紀	0	0	0	0	1
6	水口 雅也	27	2	10	1	0
7	福元 直人	17	0	8	1	1
8	能隅 彰太	0	0	0	0	2
9	藤田 弘道	30	0	14	2	1
10	村越 圭祐	16	0	5	6	0
11	徳住 颯晟	0	0	0	0	0
12	高野 慎也	2	0	1	0	0
13	石川 雅朗	12	0	6	0	0
14	中尾 渉	8	0	4	0	1
15	新飼 雄三	11	0	5	1	2
合計		127	2	55	11	9

チーム名						
れいめい						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	濱田 真伍	15	1	6	0	2
5	熊本 哲也	15	3	3	0	1
6	賦句 圭亮	5	1	1	0	1
7	西田 大将	7	1	2	0	0
8	眞弓 了介	2	0	1	0	2
9	大井 智義	1	0	0	1	0
10	藤田 裕文	2	0	1	0	0
11	川口 慧	9	2	1	1	3
12	坊ノ下 佳樹	3	1	0	0	2
13	重留 翼	2	0	1	0	0
14	丸田 潤	3	1	0	0	0
15	濱田 純旗	5	0	2	1	0
合計		69	10	18	3	11

戦評

試合開始直後から、高さに勝る福大大濠が、一番藤田のインサイドで着実に得点を重ね、開始4分で早くも10点のリードを奪う。タイムアウト後、れいめいはオールコートでプレスを仕掛け、激しいディフェンスから、一番熊本が3Pを連続して決め、粘りを見せる。2Qに入っても、福大大濠のインサイドvsれいめいのアウトサイドの構図は変わらず、ギリギリと福大大濠がリードをひるげる。3Qに入ると福大大濠がれいめいのプレスを攻略し、おもしろいように加点していく。れいめいは、あせりからかシュートミス、ターンオーバーをくり返し点差が一気に広がる。4Qは福大大濠はスターティングメンバーをベンチへ下げ余裕を見せる。れいめいも最後までプレスを仕掛けるが、点差は縮まらず127 - 69で福大大濠が圧勝した。

担当者(田口智之)

第63回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

試合結果及び個人トータル表

男子	Bコート 第5試合(2回戦)						
日時	平成22年6月19日(土) 15:30~						
会場	熊本県立体育館						
対戦結果	チーム名	得点	10	—	28	81	美来工科
	鹿児島工業	56	21	—	20		
			7	—	17		
			18	—	16		

チーム名						
鹿児島工業						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	鮫島 和人	1	0	0	1	1
5	竹添 猪武樹	2	0	0	2	0
6	日高 宏紀	16	0	7	2	2
7	中馬 健志	14	1	3	5	0
8	瀬戸山 章	0	0	0	0	0
9	塩井 将仁	0	0	0	0	1
10	小野 昌彦	0	0	0	0	1
11	相良 英人	0	0	0	0	0
12	川畑 政貴	12	0	5	2	0
13	黒木 晟	9	0	4	1	0
14	玉寄 国章	0	0	0	0	0
15	玉田 博人	2	0	1	0	0
合計		56	1	20	13	5

チーム名						
美来工科						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	新里 龍武	16	0	7	2	1
5	ファンティンマイケル真樹	11	2	2	1	1
6	喜久山 貴一	11	3	1	0	2
7	宮平 弥	10	0	5	0	3
8	島尻 恵汰	4	0	1	2	1
9	池原 秀平	2	0	1	0	1
10	大城 拓也	8	0	4	0	3
11	長嶺 直也	11	1	4	0	1
12	玉城 智也	2	0	1	0	1
13	座間味 光	4	0	2	0	0
14	照屋 友雅	2	0	1	0	1
15	金城 宏智	0	0	0	0	0
合計		81	6	29	5	15

戦評

1Q立ち上がり、どちらもDFはハーフマンツーでスタート。美来工科の速い展開に鹿児島がついていけず、前半開始2分半で0 - 11。鹿児島工業タイムアウト。少しずつペースをつかんでいくものの、点差は縮まらず、10 - 28で1Q終了。2Q前半鹿児島工業がペースをつかみ、黒木の3連続得点で点差を縮める。すかさず美来工科タイムアウトで流れをきる。美来工科 宮平が要所でカットインを決め、点差は元に戻り、31 - 48で前半終了。3Q開始直後どちらも点数が入らない。美来工科の激しいディフェンスに鹿児島工業は高さで有利であるはずのセンターになかなかボールを入れることができない。スティールからの速攻で美来工科が点差をさらに広げる。4Q徐々に鹿児島工業 川畑のセンタープレーを中心に攻めるが点差は縮まらず、試合終了。

担当者(上原 裕樹)